

令和 7年 3月 12日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立東山小学校

校長 村尾 勝利

令和6年度 目黒区立東山小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 第1回実施日時 令和6年 5 月 25 日(土) 午前11時30分～午後 0 時30分

・令和6年度東山小学校 経営方針について

・令和6年度東山小学校 主な学校行事について

(2) 第2回実施日時 令和6年11月30日(土) 午前 8 時 35分～午後 0 時30分

・令和6年度東山小学校 学習指導・生活指導・研究について報告

(3) 第3回実施日時 令和7年2月15日(土) 午前10 時 00分～午前 11 時00分

・令和6年度四者による学校評価について

2 参加者

第1回 学校評議員2名・校長・副校長・教務主幹・生活指導主幹

第2回 学校評議員2名・校長・副校長

第3回 学校評議員3名・校長・副校長

3 評価の結果等

評価項目	四者による学校評価アンケートの結果分析 ◎(成果)、●(課題)、 ⊙(成果と課題の両者を含む)	次年度の 教育活動の 改善点	学校評価 委員会での 意見
<b>学校全体について</b> ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎肯定的評価がおおよそ 94%と、学校教育の全般は概ね良好な状態だと言える。 行事や学校公開、保護者会、ホームページや学校便り等で学校の様子を公開できたことが評価につながった。	・学校便りや学年便りなどで本校の教育についての周知や学校公開の機会に具体的な児童の授業や学校生活の様子をご覧いただき、理解と支援につなげる。	・紙面の工夫により、学校の様子が分かりやすくなった。
<b>I 教育目標について</b> ・教育目標、時程、教育内容全体について	◎肯定的評価が約 93%と前年度より向上し、保護者の肯定的評価が昨年度より 3.3 ポイント上昇し、理解が高まった。 児童の「主体性」を育成する教育を推進していく。	・引き続き、児童の主体性を育むための教育カリキュラムに基づき、学習・生活面や様々な活動についての工夫を行う。	・各学級で教育目標を大切にしたい指導を続けてほしい。

<p><b>Ⅱ 心の教育について</b></p> <p>・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について</p>	<p>◎児童の 96%が肯定的な評価となっており、道徳科を要とした様々な活動の成果が出ている。</p> <p>◎保護者の肯定的評価が昨年度より 2.3 ポイント上昇し、日常の学校での様子とともに、道徳地区公開講座の授業公開などの効果として考えられる。</p>	<p>・基本は学級経営であり、学年団を中心に、担任の児童理解とともに、児童同士により良い関係づくりに重点を置き、学校行事なども生かして取り組んでいく。</p>	<p>・道徳科の指導の充実が図られている。</p>
<p><b>Ⅲ 学習指導等について</b></p> <p>・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、マイスタ、主体的に学習に取り組む態度等の取組について</p> <p>・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について</p>	<p>◎高学年児童の肯定的評価は約 94%と高く、授業改善の効果は表れている。本年度から開始した「マイスタ」「自己調整学習」の取組も認められる。</p> <p>●低学年は、学習理解の不足や困難さを感じていることがわかる。</p> <p>●保護者は、本年度開始の 40 分授業・午前 5 時間制に対する不安や心配とともに、児童の学習理解の不安も感じていることが分かり、授業改善への様々な取組をより推進していく必要がある。</p> <p>◎ICT 機器の活用では、学校公開などの機会にご覧いただくことで評価は高まっている。</p>	<p>・引き続き、校内での研修や研究を通して、「できる・わかる」授業づくりに努める。</p> <p>・児童の知識習得・定着のため、マイスタの時間を活用し、授業の効果を高める。</p> <p>・改めて、40分授業での学習効果や指導の工夫などを保護者に伝えていく。また、学力向上に向けた学年での様々な取組を、学年だよりや保護者会などの機会でも周知する。</p>	<p>・本年度から開始した 40 分授業・午前 5 時間制について、授業改善への取り組みをさらに周知し、地域や保護者の理解を深めていく必要がある。</p>
<p><b>Ⅳ 体育・健康教育について</b></p> <p>・体力向上、健康の促進に向けた取組について</p>	<p>◎保護者の肯定的評価が昨年度より 7.6 ポイント上昇した。コロナにおける制限もなくなり、休み時間の体力づくりやペースランニングなどの従来の体育的活動の効果と考えられる。</p>	<p>・スポーツテストの結果を踏まえ、児童の運動課題の解決に向けて、現状の体育的活動を継続しながら、体育科での運動で解決を図る。</p>	<p>・委員会活動や健康トレーナーとの連携等により運動量を高める工夫ができています。</p>
<p><b>Ⅴ 特別活動について</b></p> <p>・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて</p>	<p>◎児童の肯定的評価が高い数値で推移している。また、保護者や地域は昨年度より平均 6.5 ポイント上昇している。学校行事等で主体的な取り組みを行い、学校・学年便り等で周知してきた成果と考えられる。</p>	<p>・引き続きクラブ活動や委員会活動、学校行事や学年行事等において主体的な取り組みの促進し、自己肯定・有用感の醸成に努め、児童や保護者に向けて価値付ける。</p>	<p>・児童主体の活動が充実している。</p>

<p><b>Ⅵ 学校生活</b></p> <p><b>全般について</b></p> <p>＜生活指導＞</p> <p>・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて</p>	<p>◎「生活と学習のしおり」を児童並びに保護者に伝えた取組が評価されたと考えられる。</p> <p>◎学校だより・学年だより等で定期的に児童の生活の様子について情報発信などで、肯定的評価が高い水準を維持している。</p> <p>◎特別支援教室「いちよう」での個別に丁寧に指導・支援が評価されていることがわかる。</p> <p>●児童・教職員の昨年度より下がった点については、学年・学級での学習・生活面において、困難や課題を感じていることがわかり、改めて生活指導の在り方や内容・方法について共通理解を図る必要がある。</p>	<p>・引き続き保護者会等で、学年段階に応じた「自主」「自律」に向けた活動を重視するとともに、いじめ防止の取組や対応を、学校だより・学年だよりや生活指導便り等で説明する。</p> <p>・様々な児童への対応やかかわり方について校内で共有していく。東山小「生活と学習のきまり」を徹底し、児童が安心できる環境づくりに努める。</p>	<p>・放課後や、長期休業中の過ごし方など、引き続き地域でも児童の様子を見守っていく。</p>
<p>＜防災教育・安全指導＞</p> <p>・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて</p>	<p>◎四者とも肯定的評価が高い水準で推移している。避難訓練や引き取り訓練、情報モラルについての取組と周知による成果と考えられる。</p>	<p>・引き続き、生活安全を目指し、避難訓練や安全指導日に児童の意識を高めていく。また、情報モラルの指導も計画的に進める。</p>	<p>・避難訓練の際、住区との連携を図っていく。</p>
<p>＜幼・保・小・中連携＞</p> <p>・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について</p> <p>・近隣の幼稚園・保育園との連携について</p>	<p>◎運動会や地域行事への中学生のボランティア参加や幼保小連携についても各学年の取組を学年だより等で周知することで、保護者や地域に連携の詳細について周知することができた。</p> <p>◎ひがしやま幼稚園の周年行事に特設クラブが参加するなど、連携がすすんでいる。</p>	<p>・学校行事や、授業での連携・交流をさらにすすめる。</p>	<p>・学校行事等を中心に、工夫して連携している。</p>
<p><b>Ⅶ 情報の発信</b></p> <p>・学校の情報発信の充実について</p>	<p>◎本年度から学校だよりの紙面を改訂し、1～6 学年の活動や様子を伝えたり、学年だよりでは、他の学級の取組などの記事を追加したりしたこと、情報発信の質・量が高まった効果と見られる。引き続き、提供する情報の精選も行いながら、保護者との情報提供に努めていく。</p>	<p>・「開かれた教育課程」を目指し、引き続き各お便りや H&amp;S を活用しながら、教育活動への理解を求める。</p> <p>・PTA との連携や住区の活動への参加も含め、情報の共有化を図るコミュニティづくりを少しずつ進めていく。</p>	<p>・毎月の学校だよりや、正門の掲示板等で十分に情報発信されている。</p>

<p><b>VIII 教員の人材育成について</b></p> <p>・日常の職務をととして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について</p>	<p>◎校内OJTを行い、若手教員の学びの場を設け、実践的な研修を行っている。</p> <p>◎自己調整学習の校内研究を行うことで、教科の専門性ととも、児童の主体性を育てる教育活動を校内全体で行うことができた。</p>	<p>・大規模校の特徴を生かし、校内の東京教師道場部員の公開授業の参観など、互いに学び合うことで指導力を高めていく。また、OJT研修など、各教科の専門性を高める。</p>	<p>・40分授業午前5時間制の開始により、教員の研修時間の充実が図られているのは意義がある。</p>
<p><b>IX 教員の働き方改革について</b></p> <p>・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について</p>	<p>●前年と比べて大きく評価が下がった。要因として、本年度からの40分午前5時間制の導入、教育活動の変更、目黒区研究指定校としての新たな校内研究への取組など、時程やカリキュラムなどの大幅な変更による負担感が結果として表れている。</p>	<p>◎引き続き、校務改善を図るとともに、週時程を工夫し、校務処理や授業準備の時間の確保や、年間行事予定や活動の精選などを積極的に進める。</p>	<p>・校務改善がさらに進むように工夫されていることがよい。</p>
<p><b>XI 服務事故の防止について</b></p> <p>・服務事故防止に向けた取組などについて</p>	<p>◎年3回の服務事故の防止研修（シミュレーション研修含む）を行い、教育公務員、そして学校職員としての自覚と意識を高めることができた。</p>	<p>・来年度も引き続き、全体研修に加え、時期や内容に応じて学年や分掌で互いに服務事故の防止のための具体的な取組を行う。</p>	<p>・年間を通じて必要な研修を行っている事が分かった。</p>